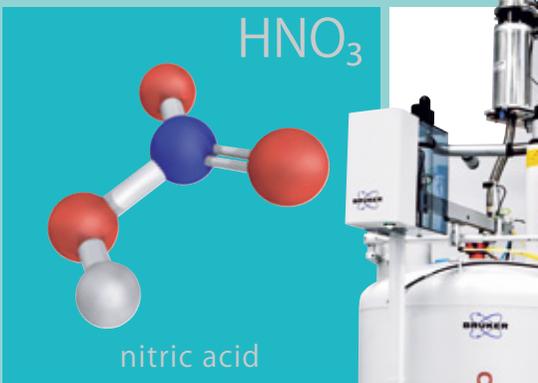


日産化学

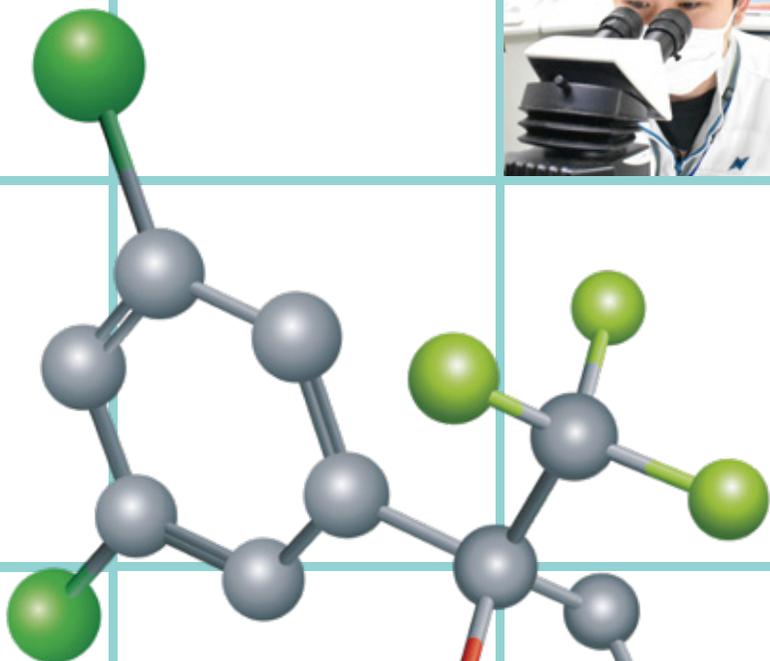


Create Together

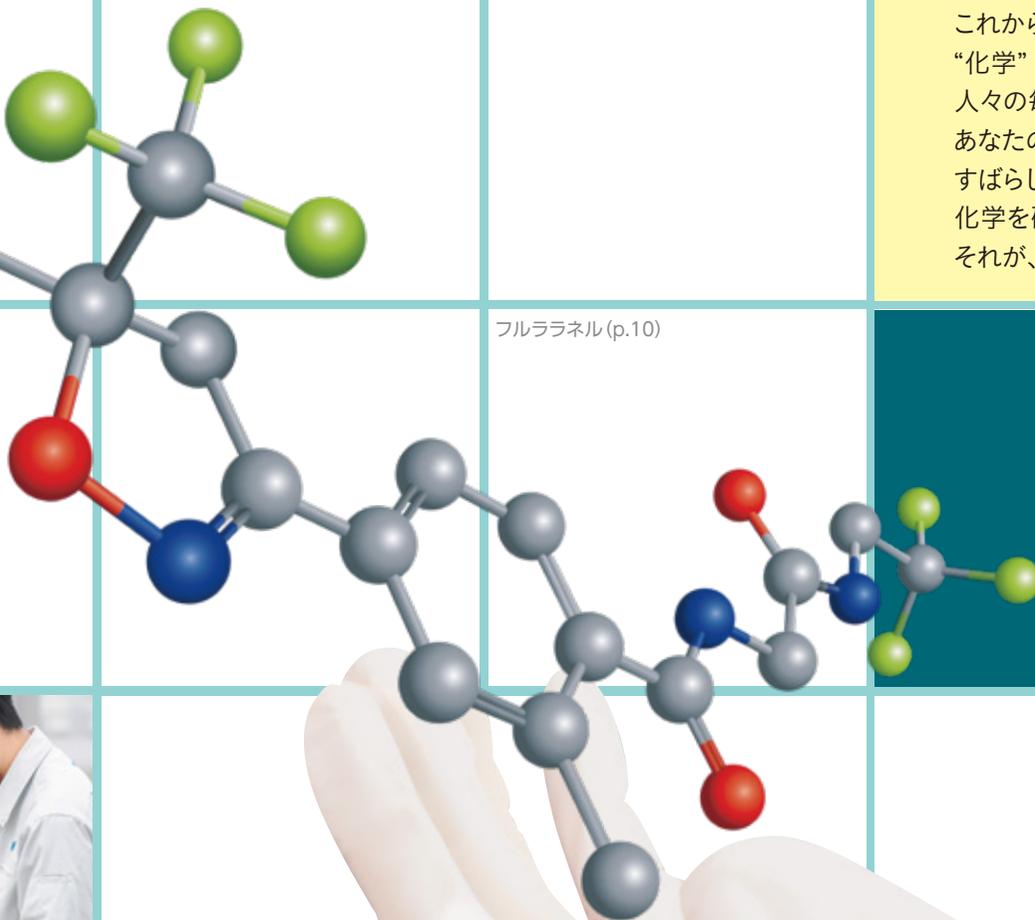




わたしたち日産化学は、
産業の発展に化学の力で貢献してきました。
そして今、世界を見渡せば
社会は直面する多様な「化」の課題にあふれています。
デジタル化、脱炭素化に、再エネ化。
AI 化や、持続可能化、少子高齢化……。
これからも、独創的なアイデアや技術でソリューションしていきたい。
“化学”は反応します。
人々の毎日の暮らしと、地球環境と、
あなたの夢とだって反応できる。
すばらしい可能性に満ちている、それが化学。
化学を礎に、今日を支え、未来をつくる会社、
それが、日産化学です。

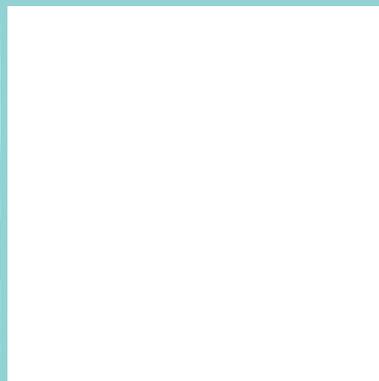
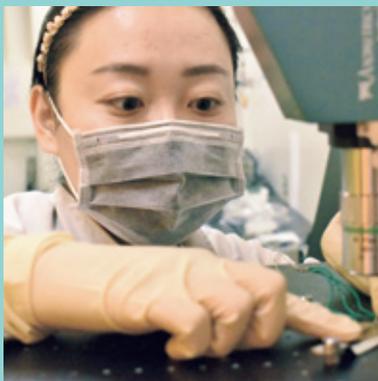


フルララネル (p.10)



未来のための、

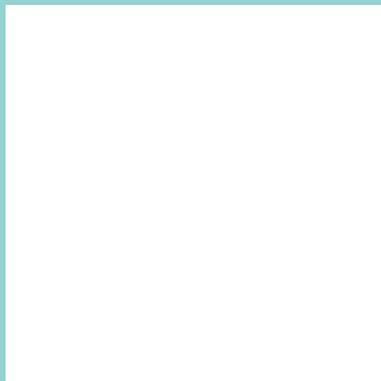




はじめてをつくる。

CONTENTS

- 事業セグメント p.3
- 技術の歴史と研究開発 p.4
- 化学品事業 p.5
- 機能性材料事業 p.7
- 農業化学品事業 p.9
- ヘルスケア事業 p.11
- 企画本部 p.13
- 会社概要 p.15
- 拠点 p.16
- 財務情報／特徴 p.17
- サステナビリティに関する取り組み p.18



事業セグメント

化学品

アンモニア系製品
硫酸系製品
ファインケミカル
(高付加価値品)

工業薬品であるアンモニア、硫酸、それらを川下へ付加価値展開した誘導品・高純度品で構成されており、幅広い分野で人々の暮らしを支えています。効率的な生産体制を構築し、優れた製品・技術を提供するとともに環境負荷低減にも努めています。

機能性材料

液晶ディスプレイ用配向材
半導体用反射防止材
無機コロイド

進化の早い当事業では、市場のニーズ・技術動向の迅速・的確な把握が必要であり、海外拠点を含め営業・研究・生産が一体となった顧客に密着した活動を重視しています。当社が培ってきた確かな技術力をもとにした製品・サービスの提供により、社会の発展への貢献を目指します。

歴史の中で培ったコア技術力を最大限に発揮する4つの事業セグメント。世界情勢、顧客、市場を取り巻く環境を見定めながら、現有製品の伸長と新製品の確かな育成を進めます。

農業化学品

農薬
動物用医薬品

新規薬剤の探索から開発・製造・販売までの一貫した事業活動と、他社剤の買収や共同開発による幅広い製品ラインアップの拡充を通じて、安定した食料の供給に貢献します。

ヘルスケア

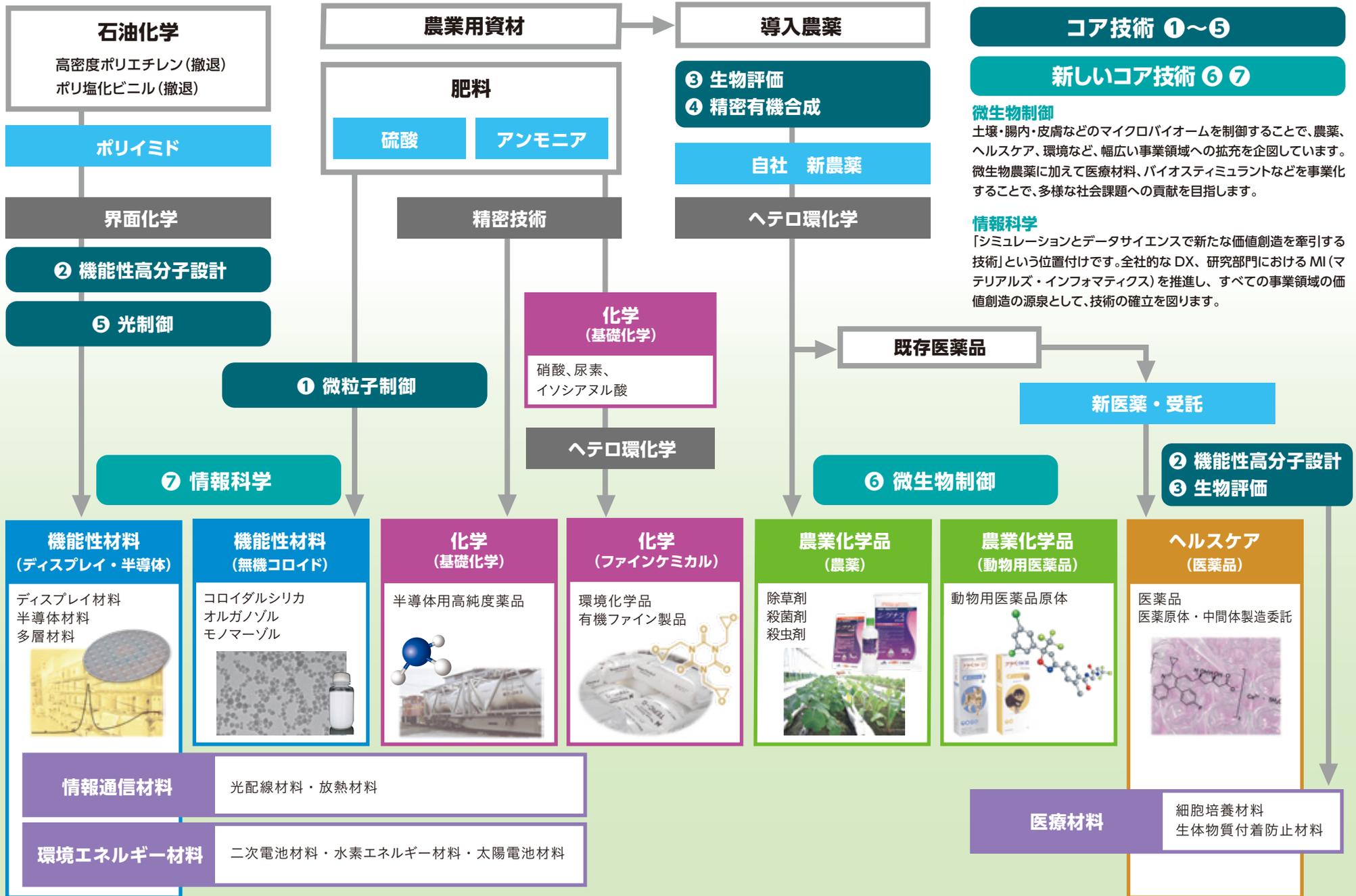
医薬品
ファインテック[®]事業

製造プロセス開発
医薬品原薬・
中間体の製造受託

事業環境の変化を適切に捉え中長期的に成長するため、事業領域の選択と集中を加速。2022年4月に創薬研究機能を企画本部に移管しました。ヘルスケア事業部は、新薬と医療材料の製造販売、およびファインテック[®]事業を担っていきます。

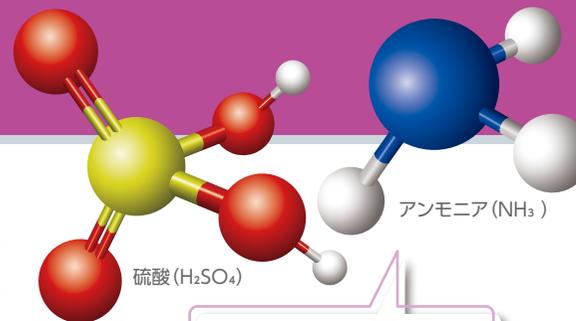
技術の歴史と研究開発

肥料の会社としてスタートした日産化学は、5つのコア技術を成長と競争力の源泉としてきました。歴史と信頼と実績のある既存のコア技術に加え「微生物制御」「情報科学」を新たなコア技術としています。



化学品事業

肥料の基礎原料である硫酸・アンモニアからスタートしました。一般工業用だけでなく、電子材料用途の高純度薬品、大気汚染物質の除去剤である高品位尿素水、シアヌル酸誘導品の水質改善用途での活用など幅広い分野で使用される製品と技術をお客様に提供しています。



富山工場の
シンボル、
造粒塔。

工業薬品の超高純度化に関する半世紀を超える研究とノウハウの蓄積があります。

基礎化学品

硫酸・硝酸・アンモニアなどの工業薬品類、半導体洗浄用の高純度薬品を中心に幅広い需要分野へ製品を提供しています。

高純度薬品

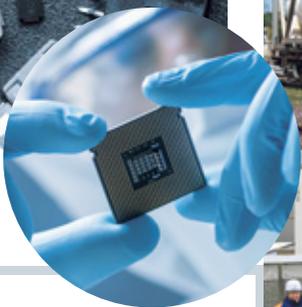
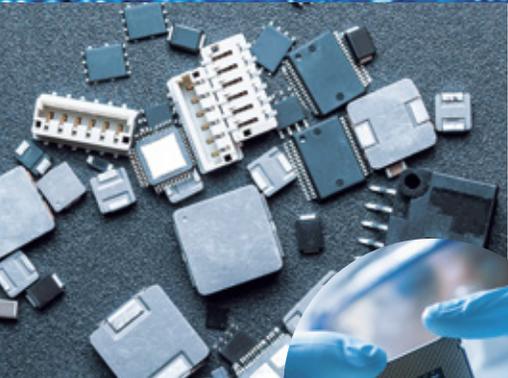
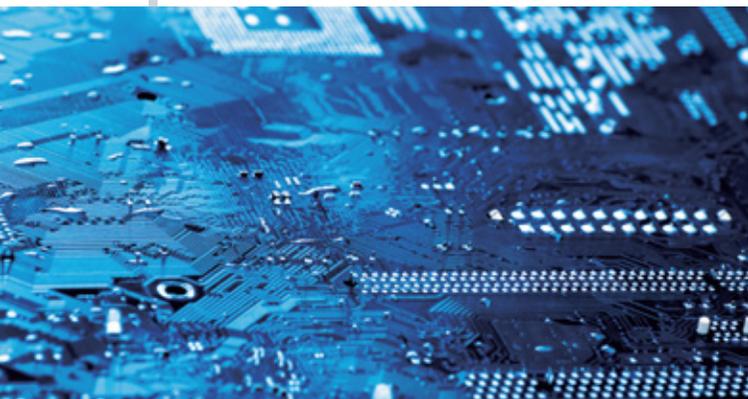
半導体洗浄用、LED用として極限まで不純物を除去した高純度硫酸・安水・硝酸・液安を供給し、お客様から高い評価を得ています。

AdBlue® (アドブルー)

排出ガス浄化技術である「尿素SCRシステム」に使用される高品位尿素水。ディーゼル車の排出ガスに噴射することで、窒素酸化物 (NOx) が無害な窒素と水に分解されることから、環境負荷の低減に役立っています。

※AdBlue® はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

環境負荷低減のため
モーダルシフトに取り
組んでいます。





△ファインケミカル製品

封止剤用などの特殊エポキシ「テピック®」、ノンハロゲン系難燃剤「メラミンシアヌレート」、多分岐型高級アルコール「ファインオキシコール®」、殺菌・消毒剤「ハイライト®」をはじめとする環境化学品を軸に事業展開しています。

また、日産靈芝® や OCEAN BRIGHT® SUPER DHA などの健康食品も取り扱っています。

ハイライト®

塩素化イソシアヌル酸を主原料とする製品。プール・浄化槽の殺菌、消毒および浴槽の除菌などに用いられ、社会の環境衛生に広く貢献しています。

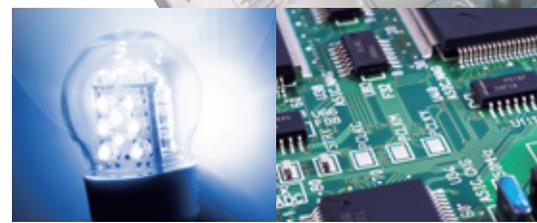
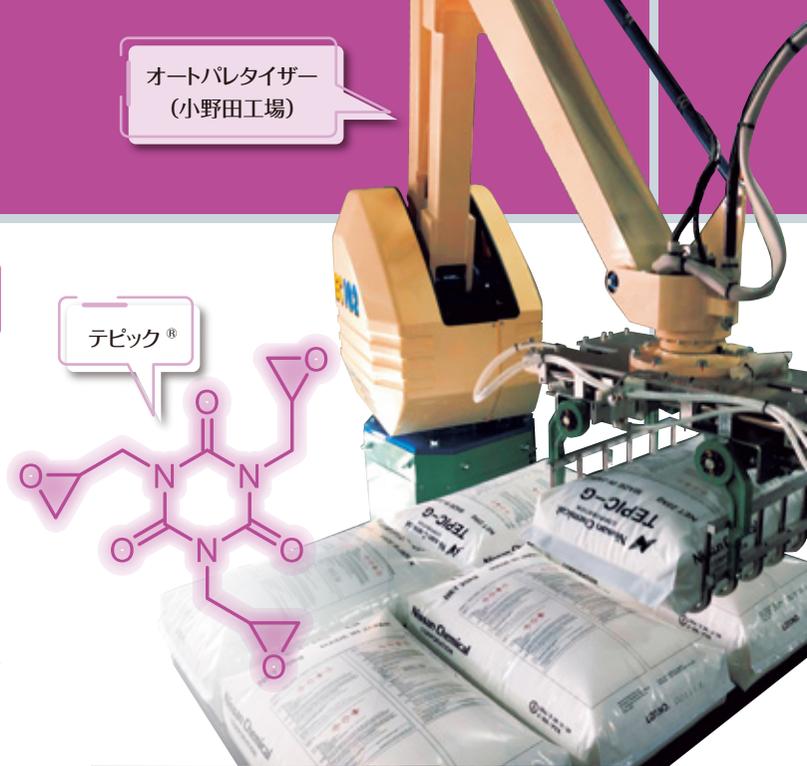
テピック®

耐熱性、耐候性、透明性に優れたエポキシ化合物であり、粉体塗料硬化剤のほか、半導体やLED、基板関連電子材料用途で幅広く利用されています。

日産靈芝®

日産靈芝® は日本国内で栽培した靈芝を国内で加工した安心・安全な国産の健康食品です。

オートバレイザー (小野田工場)



機能性材料事業

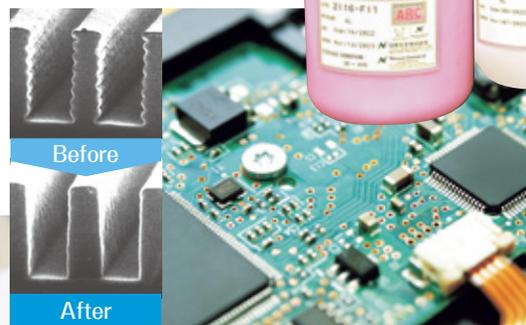
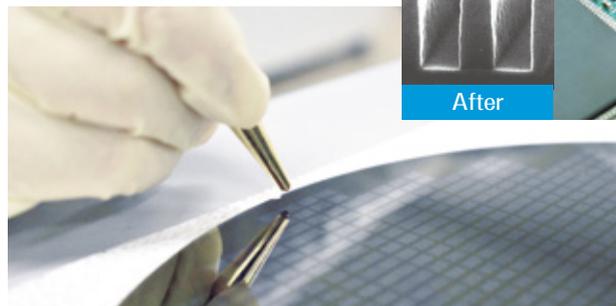
スマート社会の実現に向けて、半導体、センサー、ディスプレイの進化が求められています。機能性材料事業部は、3本柱であるディスプレイ、半導体、無機コロイドで現有製品の用途拡大や新製品開発を通じて、スマート社会の実現に貢献します。

△ディスプレイ材料

ポリイミド樹脂を原料とする液晶配向材「サンエバー®」を基幹製品とし、無機コーティング材「NHC®」などの周辺材料も取り揃え、アジアを中心として拡大するディスプレイ市場のニーズに応えつつ事業を展開しています。

サンエバー®

ポリイミド樹脂を原料とする液晶配向材で、液晶分子を一定方向に配列させるために、液晶を挟むガラスの表面上にコーティングされます。



米国 Brewer Science, Inc. とのライセンス契約に基づき、1998年から「ARC®」の生産販売を始めました。「ARC®」は、フォトレジストを微細加工する際の光の乱反射や干渉、塗布不良などのトラブルを防止するコーティング材料です。

△半導体材料

反射防止コーティング材 (ARC®) を中心とし、多層プロセス用材料や仮貼り合せ材などへの事業展開も図ることで、半導体製造工程に欠かせない材料を提供し続けます。

現在、EUV 露光技術 (波長 13.5nm、半導体回路幅 7 ~ 3nm) を導入、EUV 用材料の量産・次世代向け開発を進めるとともに、微細化の限界に備え、三次元実装技術にも注力しています。

ARC®*

半導体リソグラフィー用に開発された反射防止コーティング材。フォトレジストの下にコーティングすることにより、基板段差による反射など、露光時に発生するさまざまなトラブルを解決し、デバイスの不良率を大幅に削減できます。

*ARC® は Brewer Science, Inc. の登録商標です。



1980年代前半、特殊ポリイミド樹脂が、電卓、時計など初期の液晶ディスプレイに配向材として採用され、これが当社ディスプレイ分野への進出の契機となりました。液晶の進歩に合わせて周辺材料の開発を続け、現在に至るまで、様々な配向方式に対応した配向膜を研究・開発しています。近年では薄型テレビやタブレット型パソコン、スマートフォンなど、多数の製品に使用されています。

▶無機コロイド

当社コア技術のひとつ「微粒子制御技術」をベースに、長年にわたりさまざまな分野向けに用途開発を進め、基幹製品の「スノーテックス®」などユニークな製品の供給に努めてきました。最近では光学フィルムのコーティング剤、電子基板材料などの分野でも使用されており、必要不可欠な材料として、お客様から高い評価をいただいています。

スノーテックス®

水を分散媒とし、無水珪酸の超微粒子を水中に分散させたコロイド溶液で、多様な機能を活かし、光学フィルムのコーティング剤、電子基板材料など、幅広い分野で使用されています。

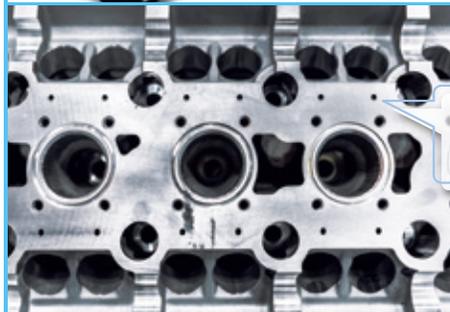


無機コロイド使用例



光学フィルム用コーティング

ディスプレイに使われる光学フィルムに、硬度、耐擦傷性、アンチブロッキング性などを付与します。



精密鑄造・触媒・耐火物

高温で焼結させることにより、強固な結合を作り、無機バインダーとして使用します。



電気絶縁ワニス

各種モーターなどの絶縁性を向上させます。

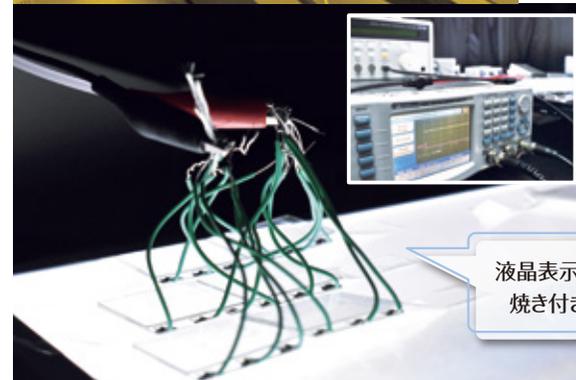


高屈剤

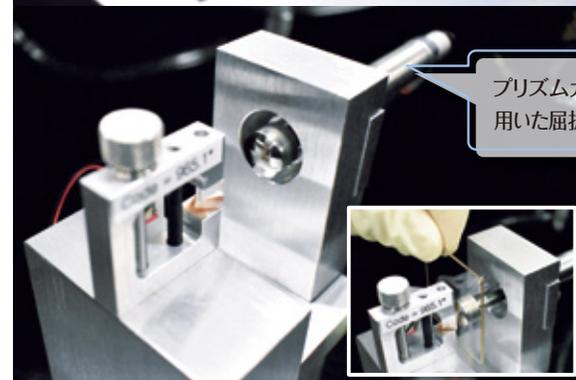
硬度、耐擦傷性、防汚性、耐食性を向上させます。



12インチウエハ塗布装置

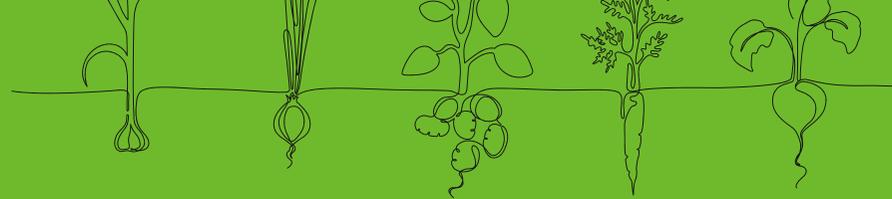


液晶表示素子の焼き付き試験



プリズムカプラを用いた屈折率測定

農業化学品事業



世界の人々に安定した食料供給を、地球環境にも優しい農薬を、という考えのもと、農薬、緑地管理用薬剤、動物用医薬品をお客様に提供しています。食料の安定供給に貢献する製品を提供する企業として、社会課題解決に向けさまざまな取り組みを進めています。

農薬

農地・緑地に使用する除草剤・殺虫剤・殺菌剤などおよび一般家庭向け除草剤の開発・製造・販売を行っています。

ラウンドアップ®

優れた除草効果と安全性を備えた、世界中で愛用されている除草剤。2002年に日本における独占販売権をモンサント社より取得しました。

アルテア®

ホタルイやカヤツリグサ科多年生雑草に卓効を示す広スペクトラム除草剤。従来のスルホニルウレア系除草剤に抵抗性を示す雑草にも有効で、日本・韓国・中国などアジアで販売しています。

グレーシア®

自社開発の殺虫剤であり、幅広い作物害虫に速効的に作用し、有用昆虫であるミツバチへの影響が少ないなどの特長を有します。日本上市に先立ち2018年韓国で販売開始以来、アジア（インド・インドネシア）や中東（サウジアラビア・UAE）、西アフリカなどで販売されています。

ジマンダイセン®

時代をこえて愛され続ける園芸用保護殺菌剤です。優れた対雨性、活性の高い有効成分、有効な病害と使える作物の幅広さにより、多くの生産者様にご愛顧いただいています。





▶緑地管理用薬剤

ゴルフ場や公園などに使用する除草剤・殺虫剤・殺菌剤などの開発・製造・販売を行っています。

イカルガ®

2010年にダウアグロサイエンス社から買収した「チフルザミド」を成分とし、芝生のラージパッチ病に卓効を示します。農地では、水稻の紋枯病を防除する殺菌剤として「グレータム®」の商品名で販売しています。

イザナミ®

自社原体「フルキサメタミド」を成分とし、芝生の主要害虫であるシバツトガ、スジキリヨトウ、コガネムシ類（幼虫）などに卓効を示します。農地では、野菜・茶に対して、効果が早く広範囲の害虫を防除する殺虫剤として「グレーシア®」の商品名で販売しています。



▶動物用医薬品

ペット用外部寄生虫薬の原薬の開発・製造を行っています。

フルララネル

当社が発明した化合物で、MSD Animal Health (以下、MAH) 社が開発した動物用医薬品「ブラベクト®」、「エグゾルト®」に含まれる有効成分です。フルララネルは当社が製造し、動物用医薬品原薬としてMAH社に供給しています。安全性が高く、ノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れ、非常に低濃度になっても効果を発揮するため、既存製品よりも長く有効性が持続するという優れた特長を有しています。エグゾルト®は鶏向けワクモ駆除剤として欧州・アジア各国で高い評価を受けています。

※ブラベクト®・エグゾルト®は、Merck & Co., Inc. の子会社 Intervet International B.V. の登録商標です。



ヘルスケア事業

1982年に医薬品事業へ進出し、ケトプロフェンの外用製剤「エパテック®」を皮切りにさまざまな製品を開発・上市してきました。これまで培ってきた技術で、世界中のかけがえのない生命と笑顔のために、より優れた医薬品と医療材料を提供していきます。

ヘルスケア

1994年に自社新薬第一号としてエホニジピン塩酸塩（販売名：ランデル®）を上市し、韓国においても販売名：FINTE®のブランド名で販売されています。

2003年にはピタバスタチンカルシウム水和物（販売名：リバロ®）が興和（株）から上市され、世界30カ国以上で販売されています。

ピタバスタチンカルシウム水和物（リバロ®※1）

強力な LDL コレステロール低下作用と少ない薬物間相互作用を特長とし、高脂血症治療に使用されています。

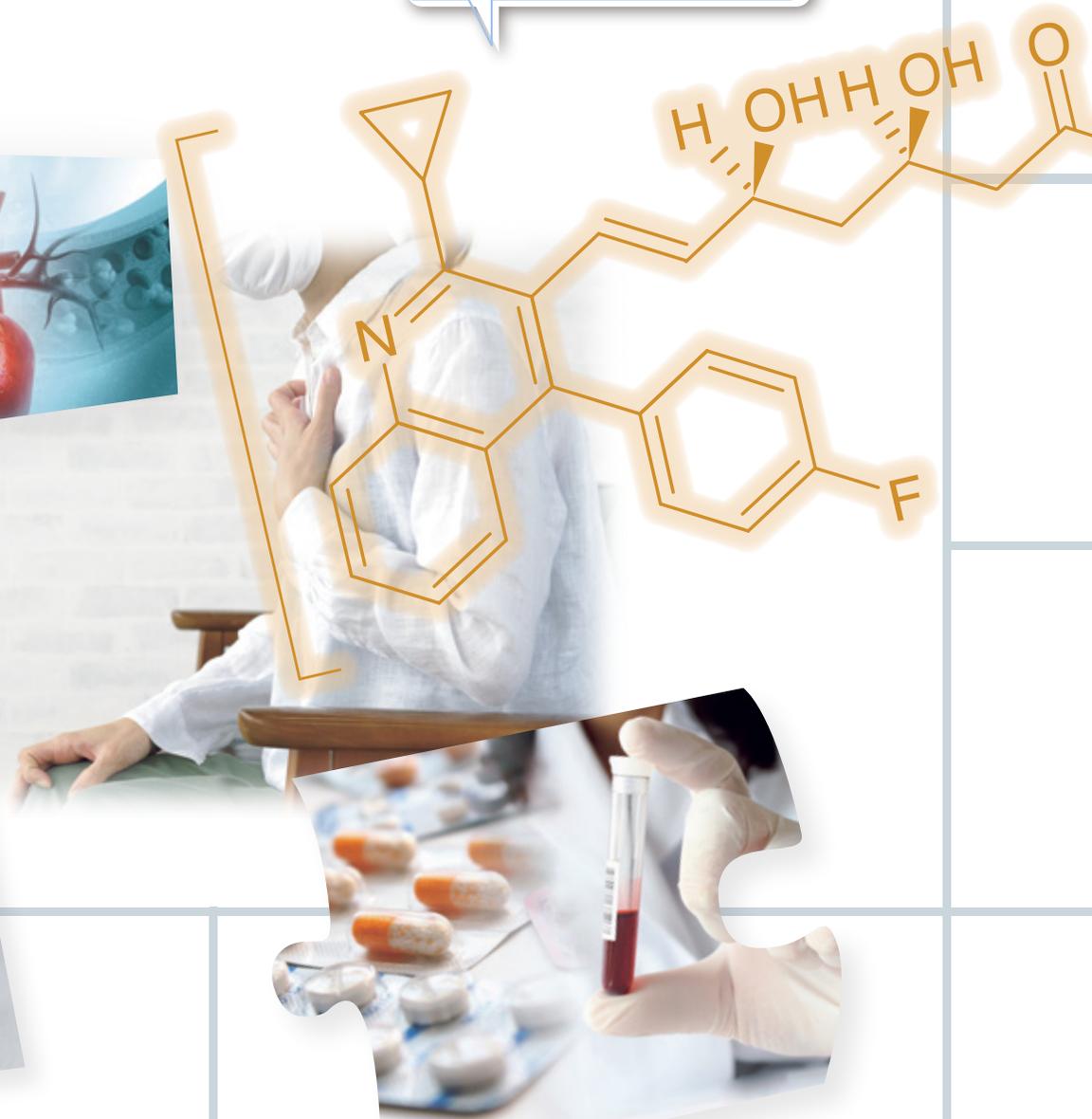
エホニジピン塩酸塩（ランデル®※2）

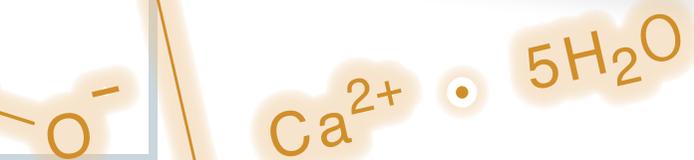
腎保護作用を特長とする持続性カルシウム拮抗薬で高血圧症と狭心症治療に使用されています。

※1 リバロ®は、興和株式会社の登録商標です。

※2 ランデル®は、ゼリア新薬工業株式会社の登録商標です。

ピタバスタチンカルシウム水和物
HMG-CoA リダクターゼ阻害剤





受託内容

- ・ 医薬品原薬・中間体の製造
大型の精密分取カラムによる精製、
高薬理活性化合物の製造など
- ・ プロセス研究
新規合成ルート開発、スケールアップ研究など
- ・ ペプチド合成
核酸などの中分子医薬品合成、特に
独自技術 SYNC SOL[®]を用いることで
価格競争力のある合成法を提案
独自液相合成技術：SYNC SOL[®]



SYNC SOL

△ファインテック[®]

顧客のニーズに合わせて医薬品原薬開発をトータルにサポートする課題解決型受託事業および共同開発型事業を展開しています。前臨床から商業生産に至る各ステージでの製造プロセス開発および GMP 適合下での医薬品原薬・中間体の製造を受託しています。

近年は、ジェネリック医薬品原薬供給の事業を拡大させ、プロスタグランジン誘導体やビタミン D3 誘導体などの高薬理活性なジェネリック医薬品原薬の開発・製造・販売も行っています。



小野田工場

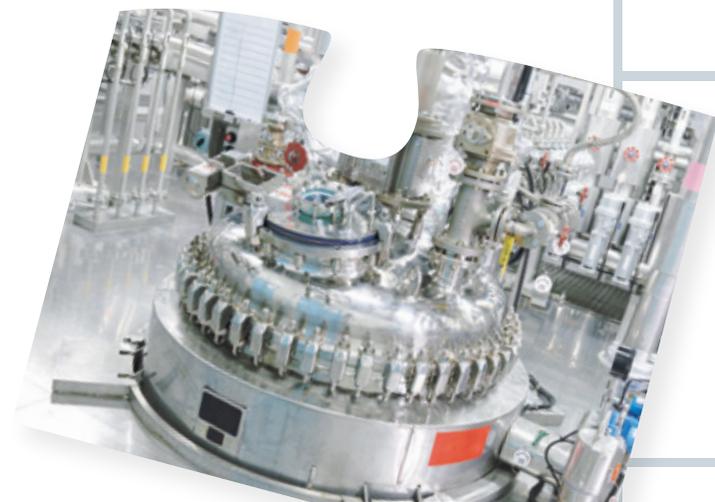
医薬品原薬およびその中間体の製造を行っています。GMP 対応はもちろんのこと、国内外の規制当局および顧客から定期的に査察・監査を受けており、その品質レベルは高く評価されています。

マキサカルシトール

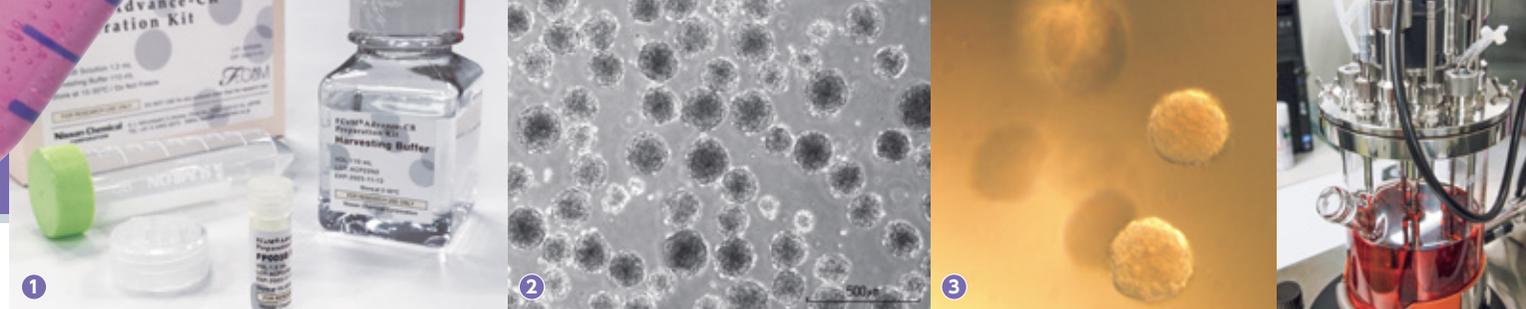
尋常性乾癬や二次性副甲状腺機能亢進症治療に使用されています。

エルデカルシトール

骨量増加作用があり、骨粗しょう症治療に使用されています。



企画本部



企画本部は、情報通信、環境エネルギー、ライフサイエンス分野において、将来の柱となる新材料・新薬・新事業の創出をミッションとしています。未来創造企業として化学の限らない可能性に挑み、お客様の“信頼”に応える高付加価値製品の創出に努めていきます。

ヘルスケア企画部

当社がこれまでに培ってきた精密有機合成技術、材料開発技術と生物評価技術を融合し、核酸医薬を中心とする医薬品および再生医療などに関連する材料を研究開発しています。

核酸創薬プラットフォーム

当社の核酸創薬プラットフォームは、①修飾核酸 MCE、②一本鎖ヘテロ核酸、③独自の配列設計アルゴリズムにより構成され、高い有効性と安全性を有するアンチセンスオリゴ核酸を提供します。本核酸創薬プラットフォームを利用した自社創薬および製薬会社との共同研究により、革新的核酸創薬に取り組み、研究開発ポートフォリオの構築を進めています。

細胞培養材料 ①②③

細胞培養材料「FCeM® シリーズ」は、細胞製造プロセス内の培養・分注・保存・輸送の工程において細胞

へのストレスやダメージを軽減し、プロセス安定化に貢献します。

間葉系幹細胞をはじめ足場依存性増殖細胞の分散培養を可能にする新しい培養基材「Cellhesion®」と各種細胞の分注、非凍結保存・輸送を実現する「FCeM® Advance-CR」があります。

生体物質付着防止材料 ④⑤⑥

「prevelx®」は親水性の生体物質付着防止コーティング材で、試験研究から臨床応用まで適応可能です。「prevelx® CC1」は細胞に対して接着抑制効果が高く、スフェロイド形成用途に使われています。「prevelx® AP シリーズ」は、タンパク質（抗体）や核酸、ウイルスなどに対しても高い吸着抑制効果があり、微量解析や薬剤スクリーニングなどの高精度化に貢献します。

放熱材料開発グループ

半導体プロセスルールのさらなる微細化や、パワー半導体の拡大に伴う熱マネジメントの重要性が増す中で、液体金属を含有する放熱材料（TIM）技術を保有する Arieca Inc. との協業により、顧客の要請に対応した材料開発を加速させています。

光配線材料開発グループ

社会のデジタル化に伴い発生するデータ量は増加の一途を辿り、今後もさらに拡大すると予想されています。次世代データセンターなどで使用される高性能半導体チップを用いた電子機器やサーバーなどには、低消費電力・低遅延・発熱抑制であることが必要とされ、その一つの解決策として新たな「光電融合





技術」が期待されています。
光配線材料開発グループでは、光電融合技術を支える新材料開発を進め、提供することでデジタル社会の進展に貢献します。

SUNCONNECT® ⑦

「SUNCONNECT®」は、CPO (Co-Packaged Optics) や高速光通信で適用される、ポリマー光導波路用の樹脂材料です。低損失特性に優れるとともに、ハンドリフロー耐性など広いプロセスマージンを有しています。

△エネルギー材料開発グループ

当グループでは、水素エネルギー材料開発チーム・ペロブスカイト太陽電池材料開発チーム・次世代電池材料開発チーム、3つのチームを設置し開発を進めています。

水素エネルギー材料

環境適合性の高い材料を製品化すべく、水電解および燃料電池デバイスの触媒層用 PFAS フリーアイオノマーを開発中です。触媒利用効率を上げ、少ない触

媒量で使用可能なアイオノマーの開発を目指しています。

ペロブスカイト太陽電池材料 ⑧

ホール輸送材をはじめ、ペロブスカイト太陽電池の耐久性を向上させるコーティング材料を開発しています。

次世代電池材料 ⑨

リチウムイオン電池のシリコン負極向け材料や、固体電池向け材料の開発を検討しています。

△SA*事業化グループ

持続可能な社会の実現に貢献する電池としても注目されている、リチウムイオン電池。主にEV（電気自動車）に使用され世界中で需要が高まるリチウムイオン電池向け材料の拡販、および新規グレード開発を行っています。

※ SA：スラリー添加剤

LIBSOLVER™ ⑩⑪⑫

スラリー添加剤「LIBSOLVER™」は、リチウムイオン電池の電極材料スラリー中に微量に添加して使用します。添加することで、電池性能および生産性向上に寄与します。

△アニマルケア企画グループ

今後のアニマルヘルス市場の世界的な拡大を見据え、当社が長年培ってきた低分子医薬品の研究開発技術を活用した新規動物用医薬品の創薬研究と、動物用医薬品や医療機器の販売に向けた戦略の策定に積極的に取り組んでいます。

△新領域事業企画グループ

既存事業の周辺領域のみならず、当社未踏の新分野において開発テーマを発掘しています。スタートアップ企業からの技術導入や企業連携・アライアンスの企画を通じて、次期有望な新規事業の企画・立案に取り組んでいます。



会社概要



概要

商号
日産化学株式会社 (2018年7月1日より)

本社
〒103-6119 東京都中央区日本橋二丁目5番1号

創業
1887年(明治20年)
日本最初の化学肥料製造会社として設立

資本金 189億円
従業員数 2,044人(単体)
3,283人(連結)
売上高 2,514億円(連結)
営業利益 568億円(連結)
(2025年3月現在)

沿革

- 1887年 東京人造肥料会社 設立
- 1937年 日産化学工業株式会社と改称
- 1989年 ニッサンケミカル アメリカコーポレーション(NCA)を米国に設立
- 1996年 ニッサンケミカル ヒューストンコーポレーションを米国に設立(現NCA)
- 2001年 韓国日産化学株式会社を韓国に設立(現NCK Co.,Ltd.)
- 2002年 ニッサンケミカル ヨーロッパS.A.S.をフランスに設立
- 2005年 日産化学アグロコリア株式会社を韓国に設立
- 2010年 台湾日産化学股份有限公司を台湾に設立
- 2014年 日産化学製品(上海)有限公司を中国に設立
- 2016年 ニッサンケミカル ドゥブラジルをブラジルに設立
- 2017年 ニッサンアグロテック インディアをインドに設立
- 2017年 日産化学材料科技(苏州)有限公司を中国に設立
- 2018年 日産化学株式会社に商号変更
- 2020年 ニッサンパラットラサヤンをインドに設立
- 2023年 ニッサンケミカルアグロシンガポールをシンガポールに設立



社是(価値観)

- 「すぐれた技術と製品によって社会に貢献する」
- 「力をあわせてつねに新分野を開発し繁栄と福祉をはかる」
- 「創意と気魄に富み責任感あるものを尊重する」

企業理念

社会が求める価値を提供し、
地球環境の保護、人類の生存と発展に貢献する

日産化学のあゆみ

当社は、1887年(明治20年)日本最初の化学肥料製造会社として誕生しました。発端は、世界的な化学者として有名な高峰譲吉博士が、英国留学中に化学肥料製造工場を見学し、日本で紹介したところから始まります。これに渋沢栄一、益田孝など当時の財界の首脳が呼応し、発起人となって当社の前身である東京人造肥料会社が設立されました。

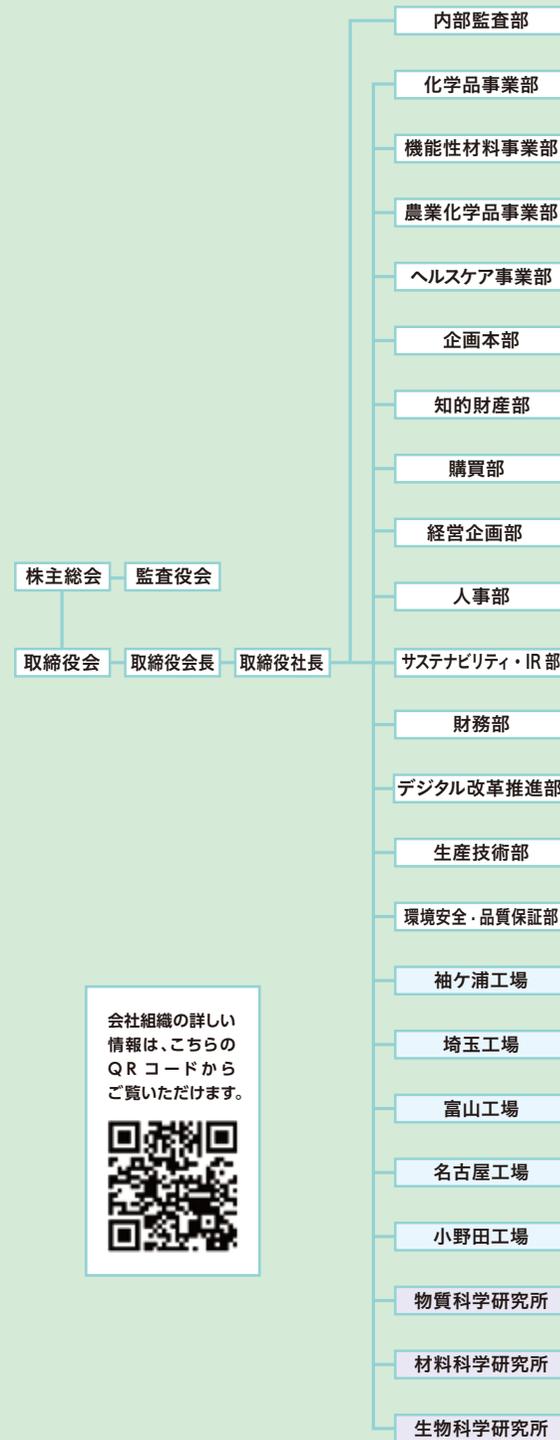


高峰譲吉
(1854～1922)



渋沢栄一
(1840～1931)

組織



会社組織の詳細な情報は、こちらのQRコードからご覧いただけます。

拠点

国内拠点

製造拠点

■ 富山工場



- 基礎化学品
- 機能性材料
- 半導体材料
- 環境化学品

■ 埼玉工場



- 農業製剤

■ 名古屋工場



- 高純度硫酸
- 高品位尿素水

■ 小野田工場



- 農業
- ヘルスケア

■ 袖ヶ浦工場



- 機能性材料
- ディ스플레이材料
- 無機コロイド関連材料

研究開発拠点

■ 生物科学研究所 白岡



- 農業研究部
- 安全性研究部
- 医薬医療材研究部

■ 物質科学研究所 船橋



- 物質解析研究部
- 合成研究部
- 農業研究部
- 医薬研究部

■ 材料科学研究所

富山



- 半導体プロセス材料研究部

船橋



- ディ스플레이材料研究部
- 半導体周辺材料研究部
- エネルギー材料研究部

袖ヶ浦



- 無機コロイド材料研究部

■ 本社

★ 東京都中央区

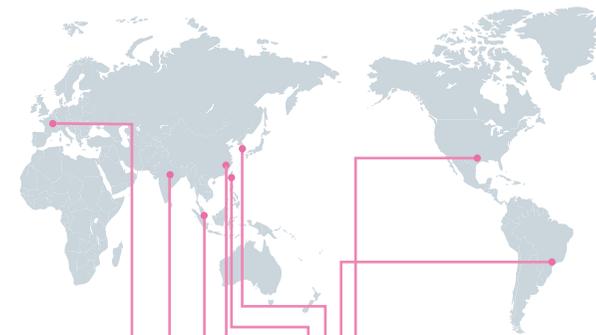
■ 営業拠点

- 札幌
- 仙台
- 名古屋
- 大阪
- 広島
- 福岡



国内拠点の詳しい情報は、
こちらのQRコードから
ご覧いただけます。

海外拠点



フランス

- Nissan Chemical Europe S.A.S.
- 農業の販売

インド

- Nissan Agro Tech India PVT. LTD.
- 農業の販売支援・普及サービス

- Nissan Bharat Rasayan PVT. LTD.
- 農業原体の製造・輸出



シンガポール

- Nissan Chemical Agro Singapore Pte. Ltd.
- 農業の販売支援・普及サービス

中国

- 日産化学制品(上海)有限公司
- 農業の販売支援・普及サービス

- 日産化学材料科技(苏州)有限公司
- 機能性材料の研究開発・販売支援・普及サービス

- 農業の販売



海外拠点の詳しい情報は、
こちらのQRコードから
ご覧いただけます。

アメリカ

- Nissan Chemical America Corporation
- 無機コロイド製品の製造・販売



- Santa Clara Office
- 市場・技術開拓

ブラジル

- Nissan Chemical Do Brasil
- 農業の販売支援・普及サービス

韓国

- NCK Co., Ltd.
- ディ스플레이材料・半導体材料の製造・販売



- Nissan Chemical Agro Korea Ltd.
- 農業の販売

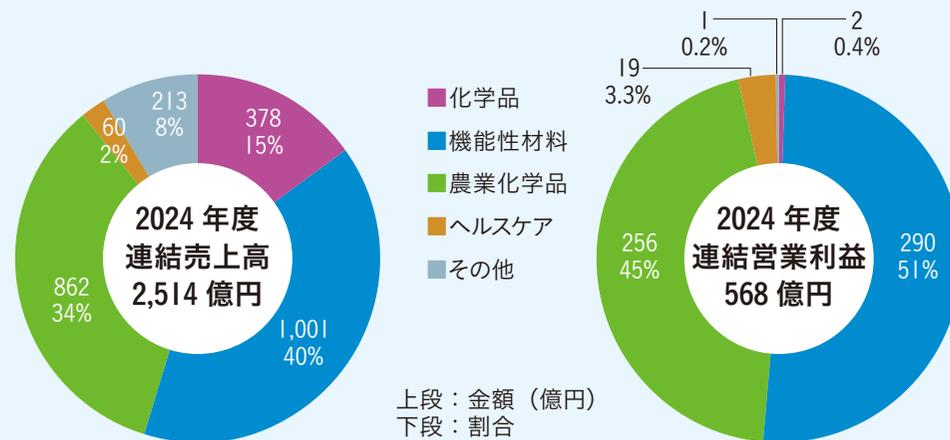
台湾

- 台湾日産化学股份有限公司
- ディ스플레이材料、半導体材料の研究開発・販売支援

財務情報 / 特徴

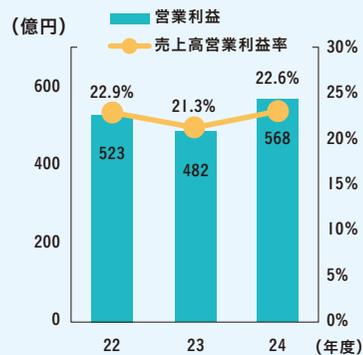
財務情報

	(億円)		
	2022 実績	2023 実績	2024 実績
売上高	2,281	2,267	2,514
営業利益	523	482	568
経常利益	558	516	580
純利益	411	380	430



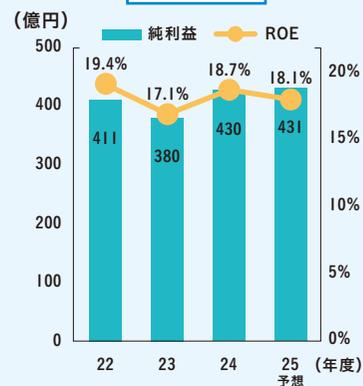
特徴

高営業利益率



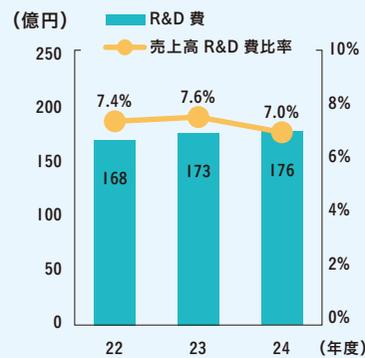
- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持 (2003 年度以降 22 年連続 10% 以上)

高 ROE



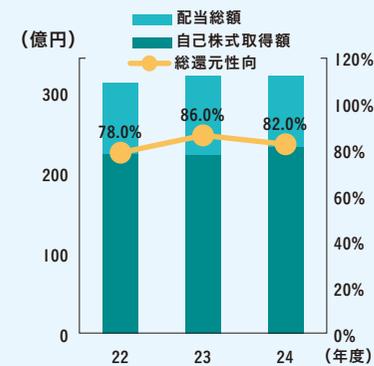
- 1996 年度以降 ROE を最重要の経営指標 → 高水準を維持
- 中期経営計画 (2022 ~ 2027 年度) で 18% 以上維持を目標

研究開発重視



- R&D を重視し、売上高 R&D 費比率は 7~8% と高水準を維持
- 総合職の約 40% は R&D 要員

積極的な株主還元



- 総還元性向 中期経営計画 (2022 ~ 2027 年度) で 75% 以上を目標 → 2020 年度以降すべてを達成

サステナビリティに関する取り組み

To Tomorrow
地球の未来のためにできること

- CO₂の削減
- 廃棄物の削減
- 水環境の保全

Be Happy
人の未来のためにできること

- 人と動物の健康問題の解決
- スマート社会の実現
- 食料不足の解決

重要業績評価指標 (KPI)

社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合

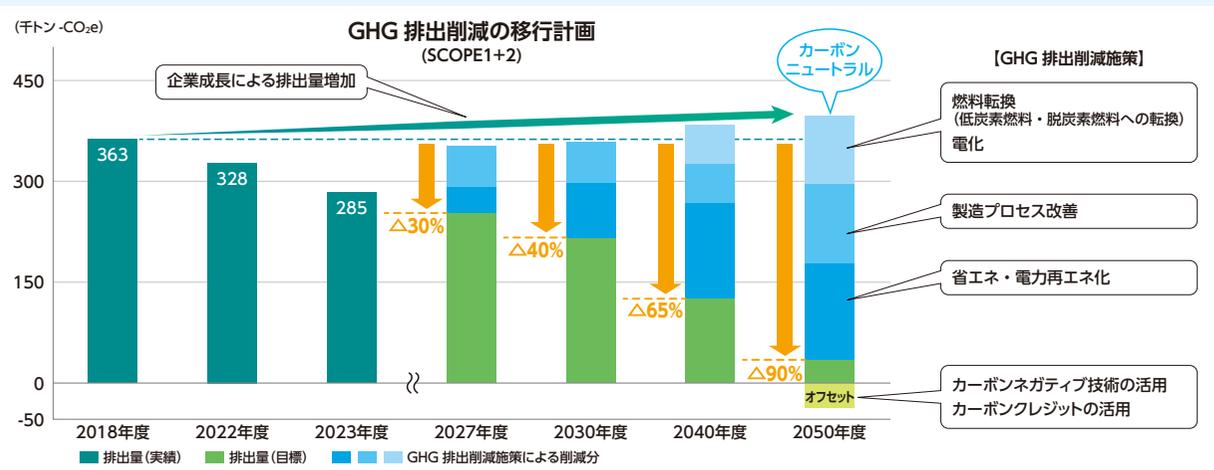
60%以上

日産化学サステナブルアジェンダ

日産化学サステナブルアジェンダとは、社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画です。「地球の未来のためにできること (To Tomorrow)」と「人の未来のためにできること (Be Happy)」を貢献する領域とし、貢献する製品・サービスの全売上に占める割合を重要業績評価指標 (KPI) として定めています。中期経営計画 Vista2027 Stage I (2022-2024 年度) では、「55% 以上維持」を目標としていましたが、Vista2027 Stage II (2025-2027 年度) からは「60% 以上」に目標を高めました。2050 年に向けてコア技術の育成により、対象製品・サービスの更なる拡大を図ります。

2050 年 カーボンニュートラルの実現

省エネの推進、再生可能エネルギーの導入拡大、燃料転換 (低炭素燃料・脱炭素燃料)、製造プロセスの改善、カーボンネガティブ技術の導入などにより、2050 年カーボンニュートラルの実現に向け注力します。



【GHG 排出削減施策】

Vista2027 (2022~2027)

- メラミン製造停止 (2022 年度実施済)
- 小野田工場ボイラー燃料転換 (2022 年度実施済)
- 再エネ電力拡大 (非化石証書、PPA)
- 省エネの推進
- 製造プロセス改善 (硝酸プラント N₂O 排出削減)

~ 2040

- 再エネ電力拡大 (非化石証書、PPA)
- 省エネの推進
- 燃料転換 (低炭素燃料・脱炭素燃料への転換) および電化など

~ 2050

- 再エネ電力拡大 (非化石証書、PPA)
- 省エネの推進
- 燃料転換 (低炭素燃料・脱炭素燃料への転換)
- 製造プロセス改善
- カーボンネガティブ技術の活用
- カーボンクレジットの活用



Nissan Chemical
CORPORATION
日産化学株式会社



www.nissanchem.co.jp

